

## 6 2 眼鏡の男 《聖マタイの召命》

眼鏡の男は立っていますか

2024

真鍋友範

### 1 【立つ】の定義

まずは、【立つ】という言葉の定義を再確認しましょう。

【立つとは、両足の2点で上半身を安定的に支えている状態】と定義できます。

### 2 では、クイズです



《最期の晩餐》レオナルド・ダ・ヴィンチ

左端にはバルトロマイとされる弟子

有名な《最後の晩餐》に登場する左端の弟子バルトロマイは、立っていますか？

よく見てください。両足は床に着いています。両腕はテーブルに着いています。

つまり状態を支えるために、両腕をテーブルについでいて、4点支持で体幹を安定させています。

つまり机に寄りかかった姿勢です。この姿勢を上記の定義に当てはめると、そうですね、立ってはいません。

### 3 では、眼鏡の男（下図）は立っていますか？

よく見て下さい。眼鏡の男は、背中を45度ほど前に傾けて、納税作業を真剣に監視しているようです。同じ姿勢をとってみれば、描かれてない陰部分にある右腕の手は机に押し当てていると気付きます。つまり【机に寄りかかった3点支持姿勢】です。

つまり、【眼鏡の男は、立っていません】。イエスに呼ばれたのなら、立ち上がらなければなりません。

### 4 聖書マタイ伝9-9

さて、聖書にはどのように記述されているのでしょうか。

{イエスは、腰掛けているマタイを窓越しにご覧になった。}

カラヴァッジョの描いた眼鏡の男は、腰掛けた姿勢ではありません。

イメージする座ったマタイの姿ではありません。

だから、マタイでは無いと、即断で否定したくなります。

でも、本当にそうなのでしょうか。



《聖マタイの召命》カラヴァッジョ

### 5 検証：マタイは永遠に座りっぱなしだったのでしょうか

最初に、イエスが窓越に見たときは、確かにマタイは座っていました。しかし、迂回して、玄関から入って収税所の中に現れるまでの間にも、収税所での収税作業は進行します。納税者と収税者、両者のやりとりで合意が完了し、実際に収納税作業が始まると、収税人は、納税者に支払う金額が正確であるよう、チェックする役割があります。若い収税人は、お金を受け取る役割です。一方で眼鏡の年配の男＝収税人は、横から収税作業をチェックする役割です。眼鏡を顔に当て、真剣に覗き込んでいます。

が、時間の経過とともに、一旦は立ち上がり、手を机につき、机に寄りかかりながら、身を乗りだしてチェック作業に従事しています。

カラヴァッジョは、この【時間経過による身体動作の変化を描画している】。

でも、完全に立っている人物にすると、聖書に矛盾するとき感じるでしょうが、ギリギリで新訳聖書マタイ伝9—9の記述から外れてはいないのです。

何故なら、聖書に【マタイは立ち上がってイエスに従った】、とあります。つまり、【机に寄りかかった不安定な姿勢から、体幹を起し、立ち上がったのです。】

カラヴァッジョの緻密な計算、表現の才能には驚かされます。

カラヴァッジョの描いた《聖マタイの召命》に描かれた【机に寄りかかる（立っていない）、眼鏡の男】こそ、呼び出されたマタイその人だったのです。